



篠栗町70年のあゆみ

篠栗町の70年を
まとめました。

昭和30年(1955年)4月1日、旧篠栗町と勢門村が合併して、現在の篠栗町が誕生しました。それから70年、町の発展や人口増加とともに、さまざまな出来事がありました。災害など私たちに苦しめる出来事も多くありましたが、その度に力を合わせて乗り越えてきました。今、私たちが篠栗町で暮らすことができているのも、これまで一生懸命に生きてきた先人たちのおかげです。そして私たちがいずれは、次の世代にバトンを渡さなければいけません。70周年という節目に、これまでの篠栗町の歴史を振り返ってみましょう。

昭和30年4月1日
篠栗町誕生
旧篠栗町と勢門村が合併し
篠栗町が発足

昭和42年6月「町政だより」発刊

昭和35年4月
「太神楽」が
福岡県無形民俗文化財に指定

昭和47年4月「町政だより」を「広報ささぐり」に改題

昭和52年11月
町花ジュンラン、
町木スギ、
町鳥キジバトを制定

昭和53年12月
米ノ山に
遊歩道と
展望台が完成

昭和48年7月
集中豪雨
集中豪雨による大災害発生
激甚災害の指定を受ける
(死者6人)

昭和54年4月
篠栗町庁舎竣工

平成13年4月
篠栗町総合運動公園
「カブトの森公園」竣工

平成5年4月
篠栗町総合センター
「クリエイティブ篠栗」竣工

昭和60年2月
八木山バイパス開通

平成12年9月
篠栗町公式
ホームページ
開設

平成21年7月
平成21年7月中国・九州北部豪雨
(死者2人)

平成22年9月
「森林セラピー基地篠栗」
オープン

平成15年3月
一般廃棄物処理施設
「クリーンパークわかさぎ」竣工

平成25年12月
一般社団法人
篠栗町観光協会
設立

令和2年4月
新型コロナウイルス感染症流行
緊急事態宣言発令

平成31年1月
JR篠栗駅東側自由通路
「ささぐり」開設

令和3年6月
LINE公式アカウントの
運用開始

令和3年6月
町民の命を守る
ささぐりづくり条例制定

令和5年3月
篠栗幼稚園、
北勢門幼稚園が
廃園

令和6年1月
トイレトレーラーを
鹿登半島地震被災地に派遣
(須恵町と共に福岡県内初)

令和7年3月
「篠栗町ハネルズ推進」
宣言

平成12年4月
篠栗町総合保健福祉センター
「オアシス篠栗」竣工

平成2年10月
「とびうめ国体
(フェンシング大会)」開催

平成14年9月
鳴瀬ダム竣工

平成22年7月
「篠栗九大の森」
オープン

平成24年4月
商工会のキャラクター
「くりみん」が誕生

平成28年1月
篠栗町公式
Facebook開設

平成31年4月
篠栗町公式
Instagram開設

令和2年5月
篠栗町トイレトレーラー完成

令和3年10月
観光交流拠点
「339Re(ささぐり)」
オープン

令和3年9月
「ゼロカーボンシティささぐり」
宣言

令和7年4月1日
合併70周年
篠栗新時代を迎える

昭和30年代【1955～1964年】	昭和40年代【1965～1974年】	昭和50年代【1975～1984年】	昭和60～平成6年【1985～1994年】	平成7～16年【1995～2004年】	平成17～26年【2005～2014年】	平成27～令和6年【2015～2024年】	令和7年【2025年～】
昭和31年 日ノ国交回復 昭和33年 東京タワー完成	昭和45年 大阪万博開幕 昭和47年 沖縄返還	昭和51年 ロッキード事件 昭和53年 日中平和友好条約	平成元年 消費税3%スタート 平成4年 東海道新幹線「のぞみ」運行開始	平成7年 阪神・淡路大震災/地下鉄サリン事件 平成13年 大阪にユニバーサル・スタジオ・ジャパンがオープン 平成14年 サッカーワールドカップ日韓共同開催	平成17年 平成20年 平成23年	福岡県西方沖地震 日本でiPhone発売 東日本大震災 平成23年 サッカー女子 ワールドカップで 日本初優勝 平成28年 Bリーグ(男子プロバスケット)発足 平成29年 上野動物園で バンド「シャングラン」誕生	平成31年 新元号は 「令和」に決定 令和6年 鹿登半島地震

日本のおもな動き

篠栗町の伝統行事

～過去から未来へ受け継がれる誇り～

町の三大行事の紹介

お遍路文化 (篠栗四国霊場)



折りの道、 190年続く巡礼の歴史

平安時代、弘法大師空海は唐の国から日本へ戻った際に若杉山を訪れ、加持修法によって村人を救済しました。天保6年(1835年)にこの地を訪れた僧侶 慈忍は村人たちの困窮を目の当たりにし、救済のために祈願を続け、村に安寧をもたらしたと伝えられています。慈忍は、村人たちに四国八十八ヶ所を模した霊場の造成を提案しました。しかし、慈忍は志がかなって亡くなってしまいました。その後、慈忍の志は藤木 藤助に受け継がれます。藤木は村の有志と寄付金を集め仏像を彫ります。そして、本四国霊場を巡拝し、持ち帰った砂を村内の八十八ヶ所の聖地に納めました。それが篠栗四国八十八ヶ所霊場の始まりと伝えられています。

篠栗 祇園夏まつり



町を挙げて賑わう 無病息災の願い

毎年7月に行われる篠栗祇園夏まつりの歴史は古く、安永9年(1780年)に始まったとされています。戦争や災害の影響で一時的に中断した時もありましたが、現在でも続いている伝統あるお祭りです。恵應退散、曹作祈願、健康祈願、家内安全などすべての願いを込めた盛大な奉納行事となっています。この日は山笠が田道を勢いよく駆け抜け、町が一日中熱気と賑わいに包まれます。また町で最も盛大なお祭りとして、町内のみならず、町外の人からも親しまれています。

たいそ かくら 太祖神楽



古の疫病退散を願う 荘厳な舞

4月と10月に若杉山登山口の太祖神社下宮で行われる神事です。現代に伝承されている項目は、舞、御幣舞、五行舞などの舞神楽と天孫降臨、竜都、天岩戸などの面神楽の合計13の神楽です。笛、ひちりき、太鼓、銅拍子の風雅な旋律とともに舞います。約400年続いており、福岡県の無形民俗文化財にも指定されています。